

報 告 書

2021年 7月17日

活動実施団体名 岩手県立博物館
責任者名 館長 高橋廣至
報告書作成者名 鈴木まほろ・渡辺修二

1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

岩手県立博物館第81回自然観察会「干潟の生きものを観察しよう」

2. 実施日

2021年5月30日（日）

3. 実施場所

岩手県宮古市金浜 津軽石川河口付近

4. プログラム等

講師：松政正俊氏（岩手医科大学教授）・阿部博和氏（同助教）・菅孔太郎氏（同ポスト・ドクター）

安全管理スタッフ：岩手県立博物館生物部門学芸員 3名

10:00～10:30 受付・道具配布

10:30～10:45 講師紹介・案内・諸注意

10:45～13:30 干潟の生きものの採集と観察および解説

5. 対象・参加人数（内訳）

対象：小学生以上 22名 内訳：小学生2名・高校生2名・一般18名

6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

河口から遠く塩分濃度が高い磯浜、中間地点、河口に近く塩分濃度が低い砂浜の3箇所において、15分間ずつ各参加者が生物の採集を行った後、バットの中に入れた生物を観察しながら講師が解説を加え、他の参加者と共有した。

感染症拡大予防のため、参加者を3班に分け、各班に1人ずつ講師と安全管理スタッフがついた。場所を変えるごとに担当講師が交代し、全ての講師と対話ができるようにした。

参加者は、それぞれの興味に応じて、ゴカイ類、貝類、甲殻類、魚類などの多様な海棲生物を手にとって観察した。アナジャコの掘った穴にチューブを差し込み、穴の造りや長さを確かめる体験も行った。砂洲では、砂浜特有の植物やハマダンゴムシなども観察した。

海岸での自然観察経験が少ない参加者が大半であり、新鮮な体験を楽しんでいた。また専門家の解説を聴くことにより、生物の生態に対する興味関心を深めるとともに、干潟の生態系機能や、生物多様性の重要性についても学ぶことができた。

参加者の感想から：「浜の生物について図鑑でしか見たことのないものの実物をたくさん見れてとても勉強になりました。」「普段見られない生き物を見られて参加してよかった。ミミズハゼ見れてよかった。」「とても楽しかったです。いつも見ている景色が違って見えてきました。」「生きものが自然をきれいにしているのに感心した。」「グループ分けで先生の解説をじっくり聞けて満足だった。」「今日のはじめての体験でとても楽しい一日でした。」

7. 写真



思い思いに採集を行う参加者



(同左)



講師の説明を受けながら採集



アナジャコの穴にチューブを差し込む



講師の解説を聴く



砂洲でハマダンゴムシを探す